

〔畜産農家の声〕

フォーベルネット会員

美作市 小林 真知子
(美作県民局畜産第一班)

私の住む美作市山外野(ヤマトノ)は、その名のお通り、市内でも人里離れた山の中にある所です。初めて来られる人はよく道に迷い、我が家に着くと「でえらあーとこじゃなー」とよく言われますが、二度、三度と来られるようになると、「静かでええとこじゃなあ」と言われます。不便じゃけど、牛を飼うにはもってこいの場所ではないでしょうか……。

昭和五十年に結婚し、その後長男が生まれ、二頭の和牛から飼い始めました。結婚をした頃は、主人は畜産会社へ、私は理容師として働いていて、まさか牛を飼うことなど考えもしませんでした。牛に携わって早三十年目、色々大変なこともありましたが、若さに任せて子育て、牛飼いと夢中の日々。いつの間にか畜産業につかっていた。

現在は母牛四十頭、子牛三十頭、その他、馬二頭、山羊六頭、豚、犬、猫などなど。

そして、牧場の大スターカンペイちゃん(寛平茂)が活躍しています。次期スターのカトちゃん(鏡伽照)も控えています。

労働力は、従業員、パート、息子、主人、私でやっています。

従業員は、農大生の時に研修生で来ていたことがきっかけで、卒業後働いてくれています。

牧場のことなら何でも知りつくしていて、とても助かっています。

パートの人は近所の人で、朝と夕方に哺乳を手伝いをしてもらっています。この人は牛の様子や顔をよく見る人で「この牛は、男前じゃあ」とか、「この牛はべっぴんさんじゃあ」とか、牛を人間に例えているのかどうか知らないが、楽しんで働いてもらっています。

息子は、平成九年に農大を卒業後、就農して頑張っています。

研修生も毎年、夏から秋にかけて、高校生や大学生を受け入れたり、時には外国人のホームステイも受け入れて楽しい日々もあり、大変なこともあるけど結構面白く楽しんでます。

私の趣味は、パン作りとカラオケで、最近では絵手紙を描くことです。近所の人に絵手紙を描いてみないかと言われ、一枚の絵手紙をもらったのがきっかけです。絵は上手ではないけれど描くことは好きで、夢中になり時間のたつことも忘れてしまうほどです。普段、何気なく見ていた景色の移り変わりにも敏感になり、又、絵手紙仲間も増えて楽しです。

